

SGHプレゼンテーション@NUS (シンガポール国立大学)

11月24日(金)、国際科81名はアジアでの大学ランキング1位と高い評価を受けるシンガポール国立大学(NUS)にて、GS IIの課題研究について英語によるプレゼンテーションを行いました。まず、大学内のカフェテリアで昼食をとった後、NUSの学生からキャンパスツアーで大学を案内してもらいました。生徒からは「まるでホテルのようにきれいな建物がたくさんあり、このような環境でぜひ学んでみたい」という声が聞こえました。その後、場所を移動して、平和班(4班20名)、医療班(9班45名)、水班(4班16名)がそれぞれ4つの会場に分かれ、NUSの学生に対して課題研究の内容を説明しました。修学旅行前に日本でアンケート結果やインタビュー調査、学術資料や実験データ等をスライドに組み込み、忙しい中準備してきた研究成果を各班5分程度で披露しました。お互いに質問をし合い、NUSの学生からの英語による質問にも臆すことなく意見を発信していました。準備から発表まで経験することで、中間発表会に向けての良い経験となりました。生徒からは「緊張したが、今回発表したことで自分たちの課題が見つかった。中間発表までに改善したい」という感想が聞かれました。



模擬国連@NUS!

同日、英語によるSGH課題研究プレゼンテーションの後、「模擬国連」も行いました。4グループに分かれ、アフガニスタン、シンガポール、スイス、アメリカ、フランス、中国、ブラジル、南アフリカ、パキスタン、ソマリアの10カ国の大使となり、Reducing Child Mortality(子どもの死亡率を低減する)という議題について、自国の立場にたった意見を英語で主張しました。模擬国連のルールに従って、より多くの賛同者を得るために、英語で多くの国の大使と交渉・意見調整を積極的に行いました。模擬国連を運営するNUSの学生が議長を務め、決議案の策定までの討議が円滑進むように、わかりやすい説明を補足してサポートしてくれました。参加した生徒は、お互いの国の主張が決議案に反映されるように、相互理解に努めながら、協力して交渉・意見調整を積極的に行いました。緊張して本番に臨みましたが、事前に担当国の経済や政治、教育など様々な背景を調べ、事前研修を重ねてきたため、終了後には安堵と達成感にあふれた表情が伺えました。生徒からは「英語での交渉力を鍛え、また模擬国連を授業の中で行いたい」と意欲的な声を聞くことができました。

